



不思議な植物 ギンリョウソウについて

ギンリョウソウはツツジ科に属し、
土壌にある菌類に寄生し、そこから

栄養を吸い取って育つ「腐生植物」です。

このようなキノコに似ていますが、決してキノコの仲間ではありません。

その証拠に・・・→

ギンリョウソウは下の写真のように花を咲かせ、雌しべも雄しべもあります。花が終わった後には実がつきます。



雌しべ

雄しべ

目玉おやじにそっくりなギンリョウソウの果実。白い球状の中に種子が沢山入っています。



銀竜草と書いてギンリョウソウ

別名: ユウレイタケ。

色素はなく全体が透けた白色です。

高さ: 5~12cm



ギンリョウソウの発芽から休眠まで



5月中旬：芽を出し始めました



5月下旬：銀竜草にふさわしい凛々しい姿になります。



5月下旬～6月上旬：開花します。



開花の様子：青い雌しべ、橙色の雄しべが確認できます。



6月下旬：果実の様子が「目玉おやじ」にそっくりなので人気があります。



6月中下旬；花卉枯れて雌しべと雄しべの名残がはっきり見えます。果実も膨らんできました



6月中旬：うまく実を結び花卉の縁が枯れて変色してきました



マルハナバチが受粉にきました。



7月上旬：花期が終わると地上部は黒く変色し液果をつけ、モリチャバネゴキブリが果肉を食べて種子を散布

資料：秋保大滝植物園

種子を散らした後の地上部は地面に倒れ腐ってなくなりますが、菌類に寄生している根はそのまま残り、来年又芽を出して花を咲かせます。そして栄養を吸い取る菌類が無くなるとやがてギンリョウソウはそこから姿を消してしまいます。